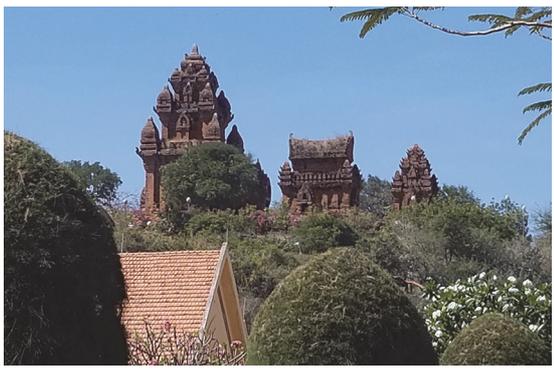


大城ひかるのベトナム



通信

シンチャオ (Xin chào) おきなわ



小高い丘の上に立つポー・クロン・ガライ。丘の上からはファンラン市内が見渡せる（筆者撮影）

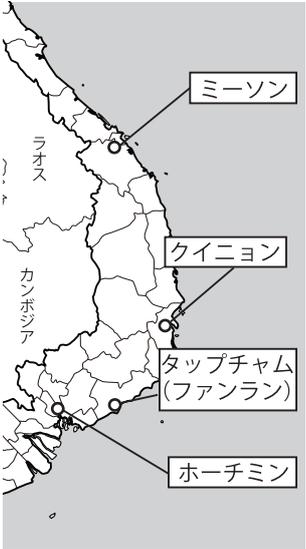
テーマのある旅が好きです。こちらに来た時、まずベトナムを知るために全国に8か所ある（しかない）世界遺産を制覇しようーと決めたのですが、あいにく渡越後4か月でコロナに見舞われてしまいました。やや小康状態になったスキをつけて出かけたのがクアンナム省のミーソン聖域です。しかし、世界遺産の

旅・第1弾です。つかりチャンパのチャム塔の虜になってしまい、それから3年近く塔を追いかけ旅を続けています。チャンパ王国は2世紀後半、フエ付近に興り、1832年に阮（グエン）朝に完全併合されるまで中部から南部にかけて繁栄したチャム族の王国です。チャム塔は彼らの宗教施設で、レンガ造りの四角形の本体の上に、曲線のピラミッドが乗った形をしており、高さは10m〜30m超と様々。ヒンズー教の影響を大きく受け、3大神の一人であるシヴァ神とリンガ信仰が特徴です。神々が住むところなので、丘の上など高い場所に建てられ、塔の入り口は日が昇る東向きとなっています。チャム塔はかつて北は

チャム塔追いかけて北へ南へ

クアンビン省から南はピントアン省まで広範囲にあつたようですが、経年や戦争により多くが姿を消してしまいました。現存するものでミーソンに続き大規模に残っているのはビンディン省クイニョン市周辺で、レリーフが施された見ごたえのある塔がたくさんありますが、今回はその名も「タップチャム（チャム塔）」の駅名がついたピントアン省ファンラン市への鉄旅です。サイゴン駅を6時45分に出発した列車は約1時間遅れで午後1時半にタップチャム駅に到着しました。ベトナム統一鉄道はハノイとホーチミンを約36時間でつなぎます。飛行機だと2時間強なのに、鉄道がこれほど時間がかかるのは、ほぼ単線だから。上下線すれ

チャム塔が残る主な都市



違いのため、とにかくよく止まります。揺れもひどくて、タップチャムまでの6時間を持って余さないうつゲームもYouTubeも前もってダウンロードしておいたのですが、とてもスマホの画面を見ていられませんでした。それを差し引いても、有り余る喜びをチャム塔は与えてくれるから不思議です。ファンランのガイドブックには、偉大な王の名を冠した14世紀のポー・クロン・ガライ、最後のチャム塔と言われるポー・ロ・メの2つの塔が紹介されています。丘の上の青空の中に、赤いレンガのポー・クロン・ガライが現れた時は思わず「ああ」とも

「おお」ともつかない声が出て、その美しさを表す言葉が続きませんでした。衰退期に作られたポー・ロ・メからは、ほかで見られる躍動感が感じられず寂しさすら覚えたのですが、ガイドがおまけで連れて行ってくれた9世紀のホアライは赤いレンガに赤い夕陽が当たり本当に美しい姿を見せてくれました。ここは歴史的にも転換期の塔だと知り大満足の旅となりました。

このように北へ南へチャム塔を追いかけましたが、行っていない場所もまだまだあります。カンボジアへも足を延ばしているので、ベトナムの世界遺産制覇はずっと先のようです。